

のすけとうーちゃんは、ぼくの家ぞく

二年 栗田凜之介

ぼくの家には、犬が二とういます。名前は、のすけとうーちゃんです。しゅるいは、グレートピレニーズという、ぼくよりもずつとおもたい大がた犬です。ぼくが二さいのときに、家ぞくになりました。

のすけとうーちゃんは、おきなわけんの、ほけんじよから、レスキューで、ほごされて、ぼくたちの家に来てくれた子たちです。すでに五さいでおにいちゃん、おねえちゃんでした。おきなわから、ひこうきにのって、大きなゲージではこばれてきて、ぼくは、

「大きい体なのに、よくがんばってきてくれたな。」
 と思いました。

おきなわでは、セラピー犬としてかつやくしたそうです。そのご、ゆけつ犬として、せまいゲージにいられて、まいにちをすごしていたそうです。ゲージからだしたときに手や足が赤くなっていたりあざができていたのを見て、

「とてもかわいそうだな。」
 と思いました。

ぼくの家に来てからごはんもよろこんで食べるし、食べていくうちにたいじゅうもふえて大きくなりました。ぼくが小さいころトミカであそんでくれたり、本を読むと、よこでじつときいてくれたり、ドッグランであそんだり、ぼくがおやつをあげるとおすわりしたりきらきらの目でこつちを見られます。

そんなのすけとうーちゃんが大好きです。たいせつなかぞくです。

よくかぞくで話します。

「のすけとうーちゃんがぼくたちの家に来てくれて、ほんとうによかった。」

「のすけとうーちゃん生きててくれてありがとう。これからもいっぱい生きてね。」

ぼくは、これからもなにかを、かうときは、かくごをきめてその子がしあわせになれるように、そだてていきたいし日本中、せかい中の人に生きもの大切さをしてほしいです。